

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称： 毛細血管奇形におけるパルスダイレーザー治療効果の検討

研究の目的

毛細血管奇形は、生まれつき皮膚の一部にみられる平坦な赤あざで、皮膚の浅い部分にある毛細血管が拡張・増生していることが原因です。自然に消えることはなく、成長に伴って色調が濃くなったり、厚みを増したりすることがあります。現在、毛細血管奇形に対しては、パルスダイレーザーが第一選択の治療とされています。この治療は、特定の波長のレーザー光を照射することで、皮膚の表面を傷つけることなく、異常な毛細血管内の酸化ヘモグロビンを標的として熱エネルギーを加え、血管を閉塞・消退させるものです。

レーザー治療の有効性は、病変の部位、大きさ、色調、肥厚、血管構造など、さまざまな要因に影響を受けます。本研究では、毛細血管奇形の患者さんがパルスダイレーザー治療を受けた後の治療効果と、患者さんの背景因子（年齢、性別、病変の部位、大きさ、色調）および治療回数、副作用の有無との関連性を分析し、治療効果に影響を与える因子を見つけることを目的としています。

研究実施期間： 研究実施許可日 ～ 2025 年 12 月 31 日

対象となる方： 2021 年 4 月 1 日から 2025 年 2 月 28 日の期間に当科でパルスダイレーザーによる治療を行った毛細血管奇形の患者さん 40 名程度。

利用させていただきたい試料・情報について

当院のカルテに保存されている、以下の情報を本研究課題実施のために利用します。

- 1) 臨床所見（年齢、性別、病変部位、大きさ、色調）
- 2) 治療（期間、回数）
- 3) 治療効果
- 4) 副作用の有無

治療効果は、レーザー治療により病変の色調がどの程度改善したかを基準に 4 段階に分類し、治療前後の臨床写真を比較して、皮膚科専門医が視覚的に評価する方法を用います。また、上記 1)-2) の因子が治療効果に与える影響について統計学的に検討します。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本件連絡先	皮膚科・相樂千尋 連絡先 電話 0172-39-5087 Email: hchihiro@hirosaki-u.ac.jp
-------	--